

備前市「論語かるた」大会競技ルール ※令和7年度（2025）

【かるたについて】

大会では、「ろんごカルタ」（「絵札」と「字札」各44枚で1セット）を使用する。

【部門及び取り札について】

- ・①小学生（低学年）以下 ②小学生（高学年） ③一般（中学生以上）
の3部門（各部門とも個人戦及び団体戦（3人1組））とし、どの部門も絵札をとることとする。
- ・個人戦決勝は各部門上位2名で行う。
また、各部門上位3名及び3チームを表彰し、賞状と記念品を授与する。

【競技方法】

◎個人戦

○座り方（※別紙会場図参照）

- ・（予選）競技者は、1グループ4名程度で（裏面の座り方（予選）を参照）、敷物の上に、かるた円状に広げ、かるたを囲むように座る。
- （決勝）競技者は、向かい合って座る。（裏面個人戦決勝を参照）

○札の並べ方

- ・（予選）競技者が敷物の上に、円状になるようにかるたを並べる。審判はかるたの向きなど不平等でないかを確認する。競技者任せにしない。
- （決勝戦）審判員で並べる。
- ・かるたを並び始めてから約3分間は、記憶時間とする。

◎団体戦

- ・同部門（同じ年齢層）の3名1組で、競技方法は個人予選と同じ。
競技者は、3名1組で競技者が敷物の上に、円状になるようにかるたを並べる。審判はかるたの向きなど不平等でないかを確認する。競技者任せにしない。（裏面を参照）
3名の獲得合計枚数の集計のみで、順位を決定する。

◇競技開始

- ・進行係が鳴らす太鼓（※雨天時は拍子木とする。）1打で競技を開始する。
太鼓の合図で審判は持っている白旗を下ろす。
競技者は、姿勢を正し、読み始めまで両手はひざに置く。絵札を取る際にひざ立ちを行うことは認める。

◇札の読み方

- ・「読み手」が「から札・ひ」を2回読む。これが予告になり、1枚目の字札がまず1回読まれ（これを「本読み」と言う）競技者は、その絵札を取る。
1枚目を取った後は、1枚目の字札をもう一度読み、次の字札を読む。（字札は、取る時と取った後と2回ずつ読むことになる）。
- 「から札」も途中で必ず読まれることがある。
競技者は絵札を探し、「はい」と言って取る。その際に取った絵札を審判員に向け、確認を得る。

◇確認

- ・審判は、誰が早く取ったか、取った絵札があっているかを確認する。
取った絵札が正解の場合、審判は白旗を上げる。
取った絵札が間違いの場合、間違った絵札を戻し、お手つきの競技者以外で正解が出るまで続ける。

◇札の取り方

- ・絵札を取る時は、しっかり手で押さえる。絵札を飛ばしても取ったことにはならない。むやみに飛ばした場合は失格となる可能性がある。
- ・どちらが取ったかわからない場合は、審判が判断するが、判断が難しい場合、じゃんけんで勝った方が絵札を取ることができる。
- ・判定が終わるまで、白旗は下げたままにしておく。

◇お手つき

- ・(個人戦予選・団体戦) 読まれた札以外の札に触れた場合は、「お手つき」とし、次の回は一回休み。絵札の枚数が少なくなった時に、中心などへ絵札をそろえる行為をした場合もお手つきとする。
- ・(個人戦決勝) 読まれた札以外の絵札に触れた場合は、「お手つき」とし、自分が取った絵札の中から1枚を相手に渡す。ただし、両者が「お手つき」した場合、または取札がない場合は渡す必要はない。

◇進行

- ・白旗が全て上がって準備が出来ていることを確認してから、太鼓を1打する。
- ・審判は旗を下げる。読み手は、次の字札を朗読する。
- ・最後の1枚の絵札は、とらない。

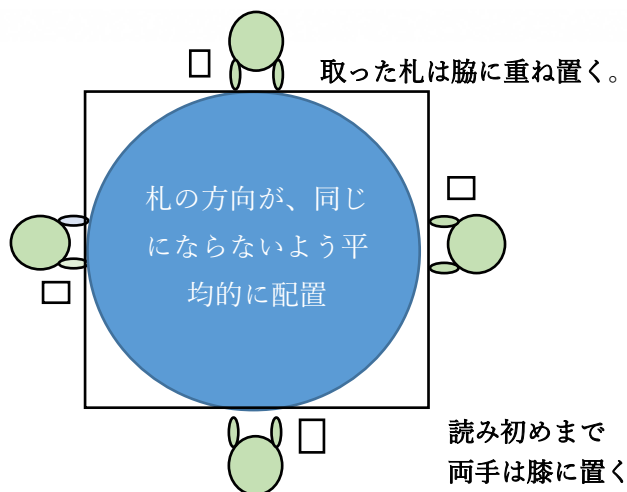
◇得点

- ・競技者は何枚とったかを審判に報告し、審判は記録表に枚数を記入する。
- ・取った枚数で順位を決める。
- ・対戦表は、事前に決めておく。
- ・取札の枚数(団体戦の場合は3名の取札合計数)の多い順に個人戦決勝進出者、3位、(団体戦は1～3位)を決定する。(同数の場合は個人戦・団体戦共にじゃんけんとする)
- ・本部は個人戦の決勝進出者を確定・発表し、決勝開始時刻を知らせる。
- ・個人戦3位及び団体戦1位～3位を表彰する。

【「ろんごカルタ」の札の読み方について《注意事項》】

- ・読むときに濁点がつくもの
「け」：げん(言)を知らざれば、以て人を知ること無し。
「こ」：ごう(剛)・毅・朴・訥、仁に近し。
「し」：じん(仁)を為すは己に由る。人に由らんや。
・字札に()がついているものは、()内も読むので、「お手つき」に気を付ける。
「ぬ」：(ふんど(糞土)のしょうは)ぬるべからず。
「へ」：(きゅうよう(久要)は)平生の言を忘れず。

座り方(個人戦予選・団体戦)



札の方向が、一方向にならないよう平均的に配置

座り方(個人戦決勝)

